

横芝の碑

(その五十七)

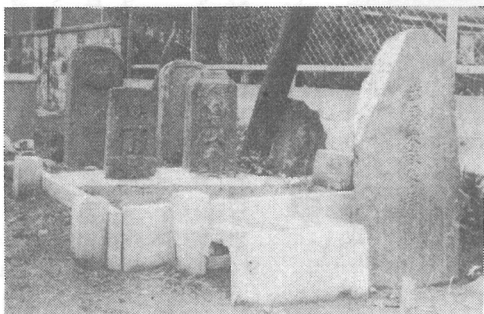
バス停庚申前の石像と碑

横芝駅発、上塚方面行のバスが栗山に入りますと庚申前という停留場です。降りるとすぐ目の前には青面金剛を刻んだ庚申様が三体建っています。

栗山地域は随分古くから開けた集落だといわれていますが、その割合に昔を語る石像や碑を余り見掛けません。処がここには庚申様の他に出雲大社参拝記念碑や、十六部巡国(筆写した法華経文を諸国六十六霊場に奉納して廻る)念願成就の記念碑等が群立しています。

附近の人の話によりますと、四、五年前までは小高くなつた所に庚申塚と刻まれた石が建っていたが何時か姿を消した」ということです。又昔、集会所の辺りに建っていたお地藏様が、或信者の夢枕に立って「もっと人通りの多い所へ移して欲しい」とおっしゃったので、此にお遷した、という話もあります。そんな風に栗山の人々が、心の中の寄所としていた庚申前は、きつと栗山が拓け始めた頃から、表街道に通ずる大きな出入口であったのだと思います。庚申様は、宝永四年(一七〇四)

寛政十二年(一八〇〇)享和三年(一八〇三)、夫々の建立となつていますが、寛政十二年は、丁度申(かのえざる)の歳に当りますので、六十年目毎に更新(庚申)するといふ、庚申塚の碑が建つていたことが頷けます。また宝永四年建立の庚申様は、青面金剛の立



▲270年前に建立された珍しい立像

像の頭の辺りに、蛇が天に向つて鎌首を伸ばした姿が刻まれているのです。別に己年の建立でもないで、或いは中国の道教学にある三尺(さんし)虫(人間の体の中には三尺虫という虫がいて、庚

のえ申の夜になると体から抜け出して、その人の罪過を天帝に告げるので、庚申の夜は一晚中眠らず三尺虫の抜出を防いだ、と伝えられています。)を形どつたのかも知れませんし、また、この年は、富士山が爆発を起して、所謂宝永山を出現させた年でありましたので、恐らくこの辺り一帯も、火山灰や噴砂塵が降り、人心の驚怖騒擾も甚だしかったことと推察できますので、そんなことに由来するのかもしれません。その理由に付いては全く判りませんが、とにかく、珍らしい姿の立像であることに間違いはありません。

以上のような、いろいろな意味から考えても、四、五年前には建つていたが、四、五年前から見えなくなった、という庚申塚の碑の年号等を調べられないのが残念です。

一時、此の辺りはすっかり荒れ果ててしまひ、その頃庚申塚と刻まれた碑も見えなくなり、最近では庚申様や、お伊勢詣りの記念碑まで倒れたり、埋もれたりしている有様でした。附近に住んでおられる、青木・熱田・石田・大木、向後・中田の皆さんは、「これでは勿体ない」と、石像や記念碑を建て直したり、洗い清めたりしている中に、この庚申様が二百七十年も前に建てられたもので有ること

や、蛇(或いは三尺虫かも知れませんが)を頭に載く、という珍らしい立像であること等に気が付きますと、「これだけではいけない、先覚者にも申訳ない」と話し合い現在の様に、庚申前の名にふさわしいたいた住いに整備され、それから庚申の日を選んでみんなが集り、茶飲会を催して庚申様や記念碑の手入れの打合せや、昔の話をし合つて先覚者を忍んだりしている。ということですが、

写真は 庚申様と、記念碑で、一番前の下に建っているのは出雲大社参宮記念碑で、上の前列は向つて右側の電柱に半分隠れた様に見えるのが寛政十二年建立の庚申様で、上部は欠けていますし、表面も大分磨滅していますが側面には寛政十二年庚申二月と刻まれたのが判り読みとれます。中央は宝永四年丁亥四月廿六日、上総国栗山講中と刻まれています。この立像青面金剛の頭部に、一見蛇の様な姿が刻まれているのです。向つて左側も庚申像で、大部分は欠けたり、磨滅したりしています。が、享和三亥×年五月と僅かに読みとれます。後列の二基は十六部巡拝記念碑で、向つて右側の碑は、正面中央の梵字の下に、奉納大乗妙典六十六部日本廻国成就の両側には、天下和順、日月清明、天明四甲辰十一月吉日、願主当村行者善光、と刻まれています。白

衣に同じ白の手甲脚絆、笈を脊にして、写経文を奉納しながら諸国巡礼の念願を果して、何年ぶりかで故郷の栗山村に帰り着き、懐しい庚申様に詣る善光さんという、信仰心の厚い人の姿が忍ばれて来ます。その隣に建っている碑も、同じ様に送廻成就の碑と思われませんが、正面の上部には、佛像らしい姿が刻まれて、その下には、やはり、奉納大乗妙典六十六部廻国、までは読みとれますがその下は磨滅して読みとれませんが、多分成就と刻まれているのだと思います。両側の文字は、月日清明、願主、とだけ辛うじて読みとれます。側面には、寛政八年丙×と刻まれています。(碑の場所は、バス停のすぐ傍なので、案内図は省略させて頂きました。尚本稿取材に当り、庚申様等の整備に尽力された方々の一人である向後泰治さんに御協力を頂きました。文化財審議会委員 小沢春光氏寄稿

◎お詫び

六月発行の広報よこしば一五三号二面の臨時町議会の記事で、総務常任委員会委員紹介の中で伊藤才司氏を脱漏、尚、六面の食中毒記事で、38度Cは28度Cの誤りだったので訂正してお詫び致します。